

## 平成28年度 ステージⅣ(職務能力発揮期)戦略マネジメント研修

10月4日(火)、宇都宮市富屋地区市民センターにおいて、採用20年目～24年目の事務職員を対象に「ステージⅣ(職務能力発揮期)戦略マネジメント研修」を行いました。講師に足利市立毛野南小学校 岡崎信二事務長を迎え、51名が研修に参加しました。「学校経営ビジョンの実現、策定に参画する事務職員を目指して」をテーマに、学校における「戦略」について知り、校長が描く学校経営ビジョンの実現のために事務職員としてどのように関わっていくことが必要なのかを学びました。



午前中の講義では、まず一般的な「戦略」や「マネジメント」の考え方について、学校ではどのように捉えればよいか、そして、実際に学校で戦略マネジメントを展開するにはどのようなことが必要であるかを御講話いただきました。学校における「戦略」とは、教育目標を達成するため、校長が掲げる学校経営ビジョンの、全体像を実現するための具体的なプロセスであり、「戦略マネジメント」では目標やビジョンの達成に向けて「人・もの・かね・情報・ネットワーク」などの経営資源を効果的に活用していく過程だということをお話いただきました。そして、マネジメントを行っていくためには、学校の活動サイクルや学校経営ビジョン・学校課題を理解し、教職員全体で共有することが必要不可欠であることや、校長先生が学校全体をどのような視点や考えで物事を見て考えているのかを理解するために、普段から校長先生と会話をするのが重要であるとお話いただきました。



さらに、学校経営ビジョンの実現に向けて現在行っている具体的な取り組みについて、野木町立野木中学校 廣田則子 事務長から実践報告がありました。野木中学校では、めざす教職員像、生徒指導方針を教職員が共有し、経営スタッフ、事務室スタッフ、教員がそれぞれ連携し「オール野木中」として問題解決に取り組んでいる様子を報告していただきました。その実践報告を聞いて、感じたことや思ったことをグループ内で意見交換し、付箋を使ってシートにまとめました。児童・生徒指導は、事務職員だから関係ないのではなく、事務職員(経営スタッフ)だからできることがあるということの気づきや、事務職員側からの課題に対するアプローチ方法を考えるきっかけをつかんだようです。

午前の研修の最後には、事前課題として、校長先生が学校経営ビジョンを策定するにあたって留意した点、参考にした事柄について経営資源の視点から校長先生と話をし、まとめてきたことをグループで発表し合いました。校長の描くビジョンを実現する過程

において、事務職員はどのような参画の仕方があるのかを考え、付箋を使ってシートにまとめました。

午後の演習の始まりには「マシュマロチャレンジ！！」が行われました。制限時間18分の中でスパゲティ20本、マシュマロ、たこ糸、マスキングテープなど決められた物の中で、いかに高いタワーを作ることができるかを各グループ競い合いました。とりあえず作ってみるグループや、簡単な設計図を書いてから作り始めるグループ、実際に作業する人、指示を出す人、バランスを見る人…。「高いタワーを作る」という目的達成のために各



グループが戦略を練り、分担し、一丸となって取り組みました。その結果、優勝チームは60cmを超える見事なタワーを完成させました。このゲームをとおして、共通の目的を達成するためには、メンバー全員が協力しなければ勝つことができないことに気づき、「グループ」が「チーム」になった瞬間を体感することができました。



次の演習では、グループならぬ、チームワーキングをととして架空のA校の学校経営ビジョンを読み、そのビジョンを実現させるための戦略を考えました。子どもの学力向上のためには…、思いやりのある子どもを育てるためには…、あいさつ運動の推進をするためには…など、活発な意見交換が行われました。そして、さらにそこで、事務職員はチームの一員としてどのような関わりが持てるかを考えました。予算、

情報、渉外、地域の活用など様々な手段・方策が多く挙げられました。

受講者はこの事後課題として、今回の研修で学んだことを学校へ持ち帰り、実際に学校経営ビジョンの実現に向けてできることを探して、「5W4H」の視点から具体的に計画を立てて取り組んだことを報告していただくことになっています。

これからの事務職員は企画・提案型の事務職員であるべきとされています。この研修をとおして事務職員は、経営スタッフの一員として、学校長が描く学校経営ビジョンの策定に参画し、そのビジョンを、教職員と共に協働を通して実現すること。学校、さらには、地域という「チーム」で、子どもの育ちを支えていくことなど、受講者のみなさんは実感できたのではないかと思います。

